

困窮者救済と未来の他者

2024/9/15

谷 誠

9月14日の「東西南北縦横斜め」大阪オフ会に参加しました。そこでの今井一さんを中心とする議論は、人間社会が将来世代にわたって持続性であるためには、政権交代の是非の次元を越えた国民の選択を実施する必要がある、国民発議・国民投票を行うことで、現在の選挙制度による政権党への政策全権委任を否定・流動化する必要がある、これは、制度化されれば、現在よりも非常にベターな政策選択につながるというように解釈しました。私は、社会が抱える基本的に重要な問題として、緊急に改善すべき課題と、将来世代における社会を持続させるために選択すべき課題があつて、その時間スケールの異なる課題をどうしてゆくか、が重要だろうと考えてきました。ここでは、この観点から国民発議・国民投票の重要性を考えてみたいと思います。

例えば、現に食べ物を買うお金もなく困窮している人を救済する、瀕死の病人を治癒する、災害で生活が破壊された人を援助する、などの緊急性の高い課題があります。一方、外交によって平和を維持し、ガザに見られる悲惨な戦禍を招くことがないよう、大災害によって生じる食料危機による餓死者が多く出ないよう、放射性廃棄物や生物によって分解されないプラスチックなどの廃棄物の蓄積によって何千年も先の世代まで負担を掛け続けることがないよう、というような、さまざまな長期時間スケールを持つ深刻な課題があります。

両方の課題とも重要ですが、両立しにくいところ、つまり現在生きる自分たちの生活を良くする欲求が、将来社会の持続性を食いつぶすことも否定できません。拙著「矛盾の水害対策」では、自然災害がどうやっても皆無にはできないことを共有し、インフラの改良追及を見直すことで、短期長期の課題の両立しにくいところを改善することを論じています。また、社会学者の大澤真幸さんの「我々の死者と未来の他者」において、「なぜ、日本人は気候温暖化に対する関心が乏しいのか」という問題提起をふまえ、「自然の定常性の維持」を問題の中核に置くべきだとの論考をホームページに書いております。

<https://hakulan.com/wp/wp-content/uploads/2024/04/Ohsawa2024e.pdf>

おそらく政治の世界における政策としては、短期的緊急課題を前に押し出す必要があり、私は、れいわ新選組の山本太郎氏がこの課題に徹して積極財政を主張している方針に賛同します。しかし、この方針は、困窮者の救済よりもみずからの生活の改良を優先する、多くの政党の主張が選挙で多数を占めることで、容易に多くの有権者の支持を得るまでには至っていません。

これは理由のあることで、現在の選挙制度で改善することは困難だと考えます。短期的緊

急的な課題、世代を超えた未来の他者の暮らす社会の持続性に関する課題、加えて、両者の間際に介在する避けがたい二律違反の問題を、個人が強く意識するためには、確かに今井さんの主張されるように、そのテーマごとの国民発議・国民投票が有効な手段となると私も考えます。少し考えて見入れば、発議・投票で対象とするひとつのテーマは、他の多くのテーマと必然的につながっていることがわかってきます。

私は、テーマを掲げることで、逆に、そのテーマが他の重要なテーマと両立しにくいというような問題もまた議論されることになると思います。そこが重要です。「こういう点にはマイナスがあるけれども個々の点が大事なので、このように選択する」というような頭の悩ませ方は、例えば、公害や災害の被害を受けたりして裁判に訴えるような深刻な課題の当事者にならない限り、行わないのが普通です。それを国民発議・国民投票で誰もが考える、これが重要なのだと思います。

以上、社会の掲げる問題の時間スケールの違いを重視する立場から、国民発議・国民投票の重要性を述べました。引き続き、よろしくお願いいたします。